

令和7年度 第2回スマートウェルネスあさひかわプラン懇談会 会議録

○開催日時	令和7年8月4日（月）午後6時22分から午後8時00分まで
○開催場所	旭川市総合庁舎7階 会議室7A（旭川市7条通9丁目）
○出席者	参 加 者（5名） ・阿部 純平、柏川 貴彦、村上 幸恵、山田 直行、吉岡 英治 書面参加（1名） ・島津 佑果 （50音順・敬称略） 事 務 局（4名） ・健康保健部 渡辺次長 - 健康推進課 熊崎主査、今主査、秋場主査
○傍聴者数等	0人（公開）
○会議資料 ・次第 ・資料1	第2回スマートウェルネスあさひかわプラン懇談会資料
○会議内容 1 開会 2 議題 （1） [進行役] [A委員] [事務局] [進行役] [事務局] 意見交換 [進行役] [B委員]	・次長挨拶 ・議題、資料についての説明 議題（1）第2次スマートウェルネスあさひかわプランの方向性について ・資料に基づき事務局から説明 [進行役] ・冒頭に説明のあった補足データや前回のまとめについて意見・質問はあるか。 [A委員] ・評価指標の目標値はどのように決まっているのか。 [事務局] ・第1次プランでは、基準値が50%未満のものは10%の増、基準値が50%を超えているものは年1%増を目標値とした。 [進行役] ・目標値が未達成の理由や背景はどのように考えているか。 [事務局] ・目標値の設定に際して、コロナ禍で全体的に値が落ち込んだ後の伸び率を予測しきれなかったことも要因の一つと考えている。 【3つの柱の取組方針】 [進行役] ・3つの柱とも基本的には問題ないと感じた。ひと・くらし・まちの観点で、新たなものを作り出していくのは難しいと思う。 [B委員] ・つながりという流れになることは理解した。「つながり」で思い浮かぶのがボランティア。自分の心に余裕がないとボランティアはできないと思う。周囲でも、定年退職の方が自分のやれることを考えて取り組んでいる方が多い。ボランティアで人が全然集まらなくなっていることが課題であるが、原因として定年延長がある。ボランティアに取り組むことで、自分の役割に気持ちが及ぶ。ただ、あまりボラン

	ティアを強調すると押しつけがましくなるおそれもあるため、難しい。
[進行役]	・ボランティアという言葉は、くらしの健幸づくりに記載してもよいのではないかなと思う。
[C 委員]	・健幸アプリでは様々な情報が発信され、受け取ることができる。情報発信の点はかなりできていると思う。 ・先日行われていた商業施設内での歩くイベントは、どの程度行っているのか。冬も行っているのか。
[事務局]	・年2回程度行っている。冬は行っていない
[C 委員]	・冬期間は歩く機会が少なくなるため、冬にも実施したらよいと思う。
[D 委員]	・障がい者で運動ができていないような方へもアプローチが必要だと思う。 「福祉」「障がい者」などの単語があると、障がい者も取り組むきっかけができるのではないかな。障がい者の人数は多くないので難しいところはあるが、あまり目を向けられていない感じがする。
[事務局]	・市では福祉や障がい者の施策を含めた様々な計画が策定されており、スマートウエルネスあさひかわプランは、それらの計画に横串を刺して推進する形になっている。福祉や障がい者の観点は、3つ柱の取組方針に定める方法のほか、プランの取組に定める方法もある。どのように反映できるか、検討したい。
[進行役]	・障がい者にとって「バリア」を感じるようなことがあるのかもしれない。取組方針に「障がい」「福祉」などの言葉を入れたり、取組に定めるなど、分かりやすく示すことができればよいと思う。
[A 委員]	・健幸アプリについて、どういう風に活用したらよいか分からない人がいると思う。活用方法を教えてもらえる機会があるとよい。 ・「まちの健幸づくり」のところで、体験イベントだけでなく、観戦できるスポーツの情報を発信してはどうか。好きなスポーツであれば、子どもや大人、障がいの有無などに関わらず見に行ったり、やってみるきっかけにもなるかもしれない。
[進行役]	・これまでスポーツ関係の情報発信は行っているか。
[事務局]	・これまでは参加できるようなイベントは発信していたが、観戦だけのものは発信していない。今後の方向性によっては、観戦する機会を含めて発信することも可能と考えている。
	【共通方針について】
[B 委員]	・「全市民が健幸づくりに取り組む」と記載があるが、「つながり」を考える上では旭川市民同士のつながりという枠で考えるのか。周辺地域を含めたつながりや、WEBを活用すれば世界中とのつながりもあると思うが。
[事務局]	・旭川市民だけでなく旭川市への通勤・通学等の方も含めて、市内における身近なところでのつながること、仮想空間ではなくリアルでのコミュニケーションということを意識している。
[B 委員]	・旭川だけでできることとなると、限られた中身になってくるかもしれない。
[事務局]	・ワーキンググループでは、高齢者や障がい者を含める意味で、「全市民」という言葉を使ってはどうかという意見があった。かえって意味を狭めてしまうようであれば、表現を見直したい。

[進行役]	・ 共通方針とはどういうものと捉えればよいか。
[事務局]	・ ひと、まち、くらしの3つの柱に共通した方針であり、どの柱においても共通方針を念頭に取組を進めることになる。
[進行役]	・ 3つの柱の基盤ということではなく、共通する要素ということか。
[事務局]	・ そのとおり。
[進行役]	・ 「多様なコミュニティ」という言葉があるが、どのような意味か。
[事務局]	・ 1次プランでは地域のコミュニティを考えていたところであるが、町内会や市民委員会などの地域でのつながりが薄れてきていることを踏まえ、2次プランでは地域に加えて、サークルやボランティア、職域など地域以外のコミュニティにおける取組を行っていく意図から、「多様なコミュニティ」と表現した。
[B 委員]	・ デジタル技術については、高齢者には難しい部分がある。ターゲットを絞るのは難しいが、絞らないと無機質で漠然としたものになるのではないか。
[C 委員]	・ 今までの話の全部を取り入れていくのは難しいのではないか。要介護者、障がい者等も含まれているか。
[事務局]	・ メインターゲットは働き世代と考えているが、それ以外の層も含まれている。
[D 委員]	・ 健幸アプリには、歩数計測以外の機能はあるか。
[事務局]	・ 血圧や体重の管理やグラフ表示、野菜摂取有無などのチェック、ラジオ体操動画などの機能がある。
[D 委員]	・ 障がいを持っている方や歩くことができない人でも活用できるアプリだと分かればよいと思う。
[事務局]	・ 他にもプッシュ通知の機能があり、市のイベントなどをお知らせしている。また、ポイントを貯めて協賛品の抽選に応募できるなど、歩数計測以外にも使っただけ。
[D 委員]	・ 健幸アプリは歩くこと以外のメリットも発信して、歩けない方を含め様々な方が利用できることを周知するとよいと思う。
[B 委員]	・ YouTube で健幸アプリを紹介するような動画は上げているか。
[事務局]	・ 30 秒の短いものであるが、紹介動画は公開している。
[B 委員]	・ 紹介動画は、「私はこのような使い方をしている」といった様々なバリエーションがあるとよいと思う。
	・ 旭川市は、昔はどこにあるか知られていなかったが、近年はどこにあるか知られており知名度が上がっている。この知名度を生かせないか。
[A 委員]	健幸アプリの活用事例を紹介してくれるのはとてもよい。また、共通方針が、歩くことよりも活動や参加することを推進する方向に移っていくのはよいと思う。歩くの色が薄まって、次の段階に入ったような印象になる。
	【副題】
[E 委員]	・ 4 の「つながる一歩、ひろがる健康」がよいと思う。1次プランでは「歩く」ということに特化していた。市民もアプリを使ったり、アプリで得た情報を使いイベントに参加したりなどと 様々な成果を得られたと思う。2次プランでは、「歩く」が自分の健康とマッチしていないような若者や「歩く」ことが達成できている人たちに向けた第2段階として、「ひろがる」という繋がりをを感じる内容にしていくとよい

	と考えた。また、キャッチコピーは短い方がポスターやネットで見かけたときも目に入りやすいと思うため、端的にまとめられたものがよいと思う。 [進行役] ・キャッチフレーズなので短い言葉の2か4がよい。また、新たな視点を強調できる点で、4がよいと感じた。 [B委員] ・4がよいと思う。 [C委員] ・6の「ちょっと先の未来づくり」もよいと思う。「ちょっと先」は気軽に取り組める感じがする。 [B委員] ・市は大型アリーナの整備を検討しているようだが、そういうものが実現するのであれば「未来づくり」もいいのかもしれない。 [D委員] ・3と6が「出かける」が入っており、よい。団体に所属していない人が一人で何かするのは大変なこと。出かけることでコミュニティに参加することなどができる。 [A委員] ・5がよい。「つながる」「広がる」を前面に出し、歩かなければならないという印象を消した方がよい。「出かける」もよい。 [事務局] ・「つながる」は全ての案に入っている。ワーキンググループでは、行動的な言葉として「1歩」「出かける」を使ってはどうかという意見があった。 [C委員] ・全てに健幸が入っているが。 [事務局] ・1次プランのときに、スマートウェルネスという言葉の説明するために、「健幸」と表現することでイメージが持てるのではないかと考えた。考えた。「健幸」はあった方がよいと考えている。 [進行役] ・「歩く」という言葉は入れなくてもよいかもしれない。 ・各委員の意見を踏まえて事務局で検討いただき、いくつかの案に絞ってほしい。その案を各委員に示し、改めて意見を聴取の上、一つに決定することでどうか。 (各委員了承) [進行役] 「つながる」と「健幸」は必須とし、「出かける」「広がる」もあってもよいかもしれない。副題であるため、市民に分かりやすくアピールするためのものということで考えてほしい。 [事務局] 3つの柱の取組方針及び共通方針は、頂いた意見を踏まえて修正する。また、副題の案については事務局で検討し、電子メールで連絡するので、再度御意見をいただきたい。
(2)	(2) 第2次スマートウェルネスあさひかわプランの取組についての意見交換 ・資料に基づき事務局から説明
意見交換	
[進行役]	・3つの柱ごとに2次プランで何に取り組むこととするかについて、御意見をいただきたい。 ・ターゲットは働き世代であることから、1次プランでも取り組んだ「企業や団体と連携した健康づくり活動」は継続した方がよい。また、冬期間の運動量低下が課題になっているため、気軽にできるスポーツなどの情報発信も行った方がよいのではないかと考えた。

[B 委員]	・次の段階の新たな取組は現時点で思い当たらないが、どうすれば取組を継続できるかという観点になると思う。他者を巻き込むという流れに発展することもできるかもしれない。
[C 委員]	・例えば、働き世代のサークル参加は難しいのではないか。その場合、どうやってつながりをつくればよいかが課題だと思う。「地域の除雪に活動を広げる」とはどのようなことか。
[事務局]	・除雪を運動と考え、活動量を増やすために、自分の家の前だけでなく、歩道や隣の玄関前まで広げてはどうかという意見があった。
[C 委員]	・町内の方ともコミュニケーションがとれる方法でよいと思う。それをどう PR していくかは課題になる。「歩く」から「つながる」にどうつなげるかが難しい。
[D 委員]	・スポーツの観戦というのはとてもよい。参加までは難しいが、見て楽しむという人は多くいると思う。ポスターが貼ってあった場合でも、観戦しにいったよいか分らなかったりする。まち全体で応援する形になっていて、そのようなスポーツイベントの情報が健幸アプリで発信されれば、行ってみようかという気持ちになると思う。
[A 委員]	・働き世代は発信されたものしか見ないのではないか。忙しくても興味があるものが自分のもとに届けば、やってみようかとなるかもしれない。また、子供のスポーツ少年団の紹介などは、親は興味を持って見ると思う。
[進行役]	・市ではスポーツ関係の情報は持っているのか。
[事務局]	・市の SNS で発信しているものがある。例えば、北口選手のパブリックビューイングなどの開催についても情報発信していた。
[進行役]	・メジャーな情報だけでなく、マイナーな情報も発信することがよいかもしれない。
[D 委員]	・スポーツだけでなく、何かを見に行くということは、動くことにつながると思う。
3 閉会	・事務局から諸連絡があった後、閉会。